おおてみち

第102号

平成30年（2018年）1月1日
滋賀県立安土城考古博物館

開館25周年記念　第57回企画展

収蔵品で語る城郭と考古

今年度で開館25周年を迎える安土城考古博物館の活動の二つの柱が「城郭」と「考古」です。展示をはじめとして、資料の収集や研究・普及事業も、それらをテーマに展開してきました。

今回の企画展では、城郭分野と考古分野の二部構成とし、テーマに即した収蔵品をご紹介します。

また、城郭関係の収蔵品で人気の高い二幅の肖像画について、今年度、マザーレイク滋賀応援寄附金を活用して保存修理を行っています。企画展では、美しく元気によみがえった徳川家康と織田信忠の画像をご披露するとともに、修理の作業内容や技術、その過程で判明した新たな情報なども展示し、成果を修理再生フォーラムでも紹介します。

第一部「考古編」

大津市滋賀里遺跡出土資料は、昭和三九年（一九六四）に始まった国鉄湖西線の建設事業に伴い発掘調査されたものです。このうち縄文時代の資料としては、土器・石器・木製品・骨角器などが出土し、滋賀里遺跡での縄文人の生活の手がかりとなるものが見つかりました。この調査から約五〇年が経過して、県内での調査事例が増え、滋賀県の縄文時代の生活を復元できるようになったなか、改めて滋賀里遺跡の意義と重要性を考えたいと思います。

徳川家康画像 修理前（当館蔵）

《主な展示資料》

滋賀里遺跡出土資料（当館蔵）

土器・土製品（滋賀里Ⅰ～Ⅴ式土器・他地域の土器・土偶等）

石器・石製品（石鏃・敲石・石皿・石棒等）

木製品（弓、斧柄・漆器等）

骨角器（装飾品類、根バサミ、角斧等）

第二部「城郭編」

防御施設である「城」の歴史の中で、安土城の出現は大きな転換点となりました。収蔵品の城絵図や古書籍類、関連の古文書、城郭に関連する人物の肖像画を展示することにより、中世城郭から、織豊城郭を経て、江戸時代の城郭（近世城郭）に至る城の変化を紹介します。

《主な展示資料》

佐々木古城跡繖山観音山画図（個人蔵）

近江国蒲生郡安土古城図（個人蔵）

近江八幡市指定文化財 石工文書（岩倉蛭子講蔵）

織田城郭絵図面（個人蔵）

羽柴秀吉朱印状・浅井長政書状・金沢城内絵図・江戸図正大全・津和野城下図（当館蔵）

公益財団法人　滋賀県文化財保護協会　調査課安土分室

江戸時代の上水道施設を発見！

平成29年5～7月にかけて滋賀県庁前にある大津廃寺跡の発掘調査を実施し、現在、安土城考古博物館内にある整理室に場所を移して整理調査が進んでいます。今回の調査では、江戸時代の上水道施設や井戸などが見つかりました。特に上水道施設は良好な状態で残存しており、遺跡範囲内を通過する江戸時代の東海道沿いに建ち並んでいた町屋に生活用水を供給していた施設と考えられます。

基本構造は、竹製の管を木製の継手で繋いで地中に埋設し、その管内を上水が流れていく仕組みです。竹管を繋ぐ継手は、接続する方向によって断面が「直線」あるいは「L字」に孔があけられています。これらの水道施設には、当時の水道職人の工夫が各所にみられます。

まず、継手の孔をあけるために、十字方向に墨打ち線を記したうえで穿孔しています。さらに、それぞれ太さの違う竹管を、継手接続部での径にピッタリ合わせて隙間なく繋いでいます。継手の中には、「拾〇番」と番付けされたものや、方角を示した「南」などと墨書されたものもあります。

また、見つかった水道施設には、「L字」の継手を積み重ねて上下クランクさせて管の高さを上げ、1m程度進んだ位置で再び同じ構造によって管の高さを下に戻している部分がありました。この部分では、混じり込んだ砂などを沈砂させ、上澄み水のみを供給するための構造であったと推測されます。

江戸時代の水道職人によって巧みな工夫がなされていたことが、調査によって具体的にわかってきました。

実測作業中の継手

ナビ 収蔵資料紹介

織田信忠画像
江戸時代前期　一〇七・一cm×四八・六cm

徳川家康画像
江戸時代前期　一〇一・八cm×三九・七cm

この二つの肖像画は、「おおてみち」の三四号と六〇号で、既に紹介しています。しかしこのたび、保存修理を受ける中で、誰も目にしたことのなかった彼らの「裏の顔」が判明したため、改めてここにご紹介したいと思います。

二つの画像は、この時代特有の目の粗い絹地に、鉱石などを砕いて粉末にした顔料を用いて描かれていますが、透けるという素材の特性を活かして、絹の表面だけでなく裏面からも顔料や金箔を施して、効果的な画面が形作られていたのです。しかしながら、掛軸などに表具されると、裏面には何重にも裏打紙と呼ばれる和紙が貼り重ねられるため、目にすることができなくなります。

保存修理ではまず、古い裏打紙を一層ずつ剥がして本紙の絹地と顔料だけの状態にし、クリーニングや破損を修復した後、新しく強い和紙で裏打ちをします。裏打紙を全て取り除いた段階で、写真に示したような絵の裏面が、姿を現してきます。

信忠画像は、肌と笏の部分に丹具という肌色の顔料、冠と束帯の黒い部分に墨、その他の部分は胡粉と考えられる白い顔料が裏から施されていました。これに対して、神の像として描かれた家康画像は、基本的には表と同じ顔料が用いられ、胡粉・墨・丹具に加え、緑青（緑）・群青（青）・朱・丹（ともに赤）がふんだんに使われ、背景の襖絵の部分には、金箔が施されています。誰が描かせたのかは分かりませんが、権力と財力を持った人であることは確かでしょう。

企画展では、修理の過程や裏面の詳細な情報もご紹介する予定です。

（髙木叙子）

織田信忠画像（裏面）

徳川家康画像（裏面）

開館25周年記念シンポジウム

安土城考古博物館の新たな地平を切り拓く

安土城考古博物館は、平成二九年一一月一日に開館二五周年を迎えました。

開館以来、「近江風土記の丘」の中核的施設として、「城郭」と「考古」を中心に地域の文化財の保存・研究・活用に努めてきました。

これまでの二五年間に当博物館が果たしてきた役割を振り返るとともに、今後、博物館の魅力を高め、その使命を果たし続けていく方法について議論する機会として、次のとおりシンポジウムを開催します。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日　時：平成30年1月14日(日)　午後1時30分～
会　場：文芸セミナリヨ
（近江八幡市安土町桑実寺七七七）
講　師・コーディネーター：
講演「考古学からみた城郭研究
―25年の軌跡と展望」
中井均氏（滋賀県立大学教授）
パネラー：田中勝弘氏（当館初代学芸課長）
小堀順弘氏（安土町観光ボランティアガイド協会長）
辻村琴美氏（NPO法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク理事長）
参加費：無料
定　員：三八〇名（当日先着順）
※事前申し込みは不要です。

博物館の主な催し

			企画展示室	望楼下
1月	6日（土）	**特別陳列ギャラリートーク「トリからイヌへ ―干支の文化財―」** ご案内：福西貴彦（当館学芸員）13時30分～、15時～【要常設展入館料】		平成29年12月12日（火）～平成30年2月12日（月・祝） 特別陳列 「トリからイヌへ ―干支の文化財―」
	14日（日）	**開館25周年記念シンポジウム** **「安土城考古博物館の新たな地平を切り拓く」** 13時30分～16時30分【無料】 会場：文芸セミナリヨ 講師・コーディネーター：中井 均氏（滋賀県立大学教授）		
	20日（土）	**連続講座Ⅱ②「足利義昭の二条城を探る」** 講師：馬瀬智光氏（京都市文化市民局文化財保護課）13時30分～ 15時【200円】		
2月	3日（土）	**連続講座Ⅱ③「織田信長期の若江城」** 講師：若松博惠氏（東大阪市立埋蔵文化財センター）13時30分～ 15時【200円】		
	13日（火）～23日（金）	**メンテナンス休館〈13日㈫～23日㈮〉**		
	24日（土）	**連続講座Ⅱ④「池田恒興に築かせた海城 兵庫城跡」** 講師：中谷 正氏（神戸市教育委員会）13時30分～ 15時【200円】	2月24日（土）～4月8日（日） 開館25周年記念 第57回企画展 「収蔵品で語る城郭と考古」	
3月	3日（土）	**連続講座Ⅱ⑤「伊坂城跡 織田氏の北伊勢支配と在地勢力の城」** 講師：髙松雅文氏（三重県教育委員会）13時30分～ 15時【200円】		
	17日（土）	**企画展関連博物館講座①** **「収蔵品から語る考古資料 ―滋賀里遺跡を収蔵品から語る―」** 講師：福西貴彦（当館学芸員）13時30分～15時【200円】		
	18日（日）	**忍者になってみよう** 13時30分～15時【要予約 600円】定員20名 ※受付開始は2月18日8時30分より		
	25日（日）	**肖像画修理再生フォーラム** 13時30分～16時30分【無料】 基調講演「戦国武将の肖像画」講師：須藤茂樹氏（四国大学教授） 個別報告「徳川家康画像・織田信忠画像の修理」報告：坂田さとこ氏（坂田墨珠堂） 「マザーレイク基金の活用と文化財修理」報告：井上 優氏（滋賀県教育委員会） 「安土城考古博物館所蔵の肖像画」報告：髙木叙子（当館学芸員）		
4月	7日（土）	**企画展関連博物館講座②「収蔵品から語る戦国の歴史」** 講師：髙木叙子（当館学芸員）13時30分～15時【200円】		

※講座・フォーラムの会場は当館セミナールームです。シンポジウムの会場は文芸セミナリヨですのでご注意ください。
※事情により行事内容や日時が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

おおてみち 第102号
平成30年（2018年）1月1日発行
編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678 TEL0748-46-2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp URL：http://www.azuchi-museum.or.jp